

2016年3月期 第3四半期

決算説明会

日本電産株式会社



2016年1月21日

－注意事項－

本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、法令に定めのある場合を除き、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。これらの要素やリスクについては当社の継続開示及び適時開示等の記載をご覧ください。

(表紙の写真は、日本電産サンキョーが開発中のブレ補正システムを搭載したカメラです。ロボットやウェアラブル用途での人の動きや作業に伴う大きな揺れへのブレ補正、またロボットやドローン用途での高周波振動へのブレ補正を実現し、鮮明な画像を提供いたします)

Nidec
All for dreams.

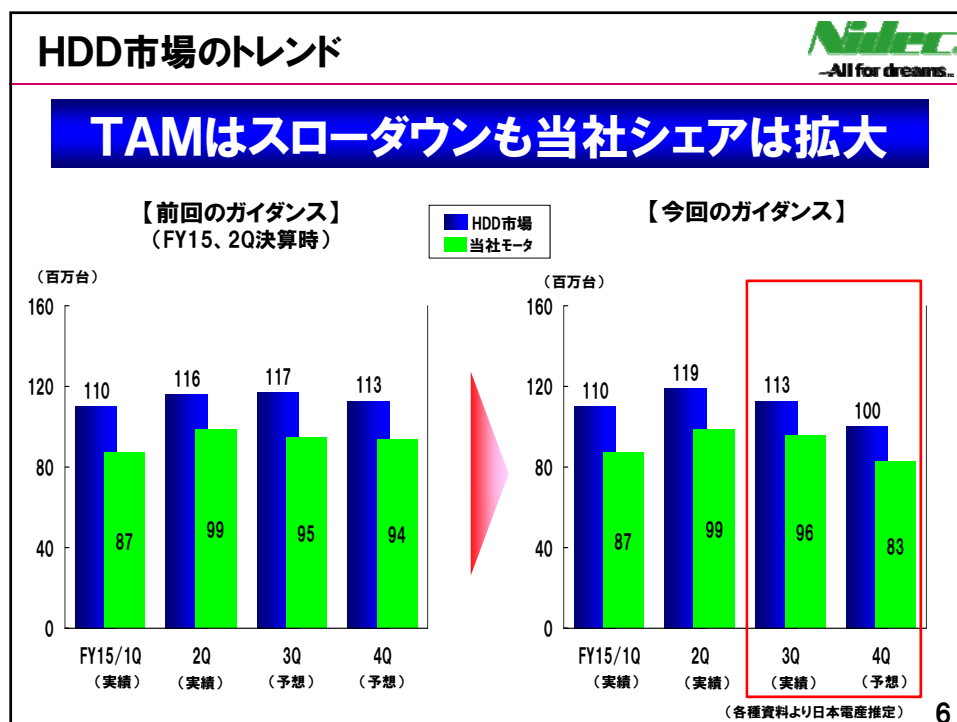
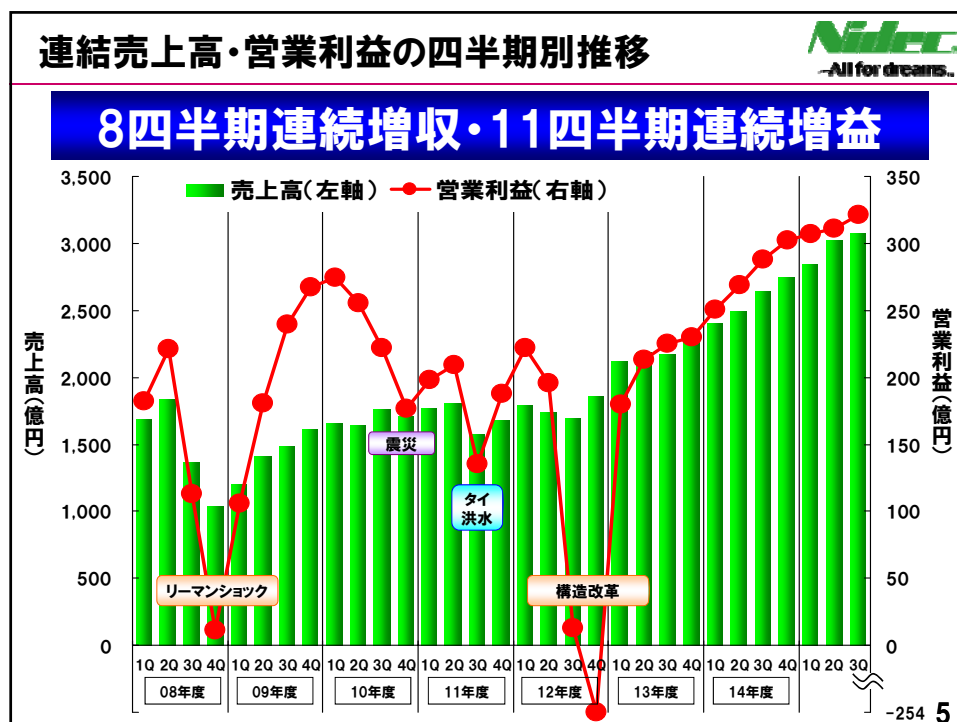
為替感応度：1円あたり米ドルは売上高68.0億円、営業利益9.0億円、ユーロは売上高10.0億円、営業利益2.5億円（全てFY15通期ベース）。

3

Nidec
All for dreams

- **連結売上高、営業利益、税引前利益、純利益の全項目において、第3四半期(累計)は過去最高を更新。**
- **四半期ベースの業績も第3四半期(単独)で売上高は8四半期連続増収、営業利益は11四半期連続増益で、それぞれ過去最高を更新。**
- **23四半期ぶりにネットキャッシュ化を達成(目標を3ヶ月前倒し)。*Vision2020* 推進の財務基盤と財務規律を向上。**

4



2020年に向けた技術革新の荒波



技術革新による新規ビジネスチャンスが到来

社会環境の変化

- 省電力対応
- 先進各国での少子高齢化
- 交通システムの電動化
- 省資源・リサイクル・環境対応 (Ecology)
- 通信インフラの高度化
- データ分析・処理(AI)

<今後有望と考える領域>

- 自動運転
- HMI (Human Machine Interface)
- EV/PHEV
- IoT
- AI
- Smart Factory
- Robotics
- ドローン
- パワード ツーツ
- ウェアラブル
- VR (仮想現実映像)
- 再生 エネルギー

7

ヒューマン・マシン・インターフェイス(HMI)



人と機械を繋ぐ接点に当社技術が益々貢献

<HMIを支える3つの連動技術>

センサー (入力)

ソフトウェア (AIやCPU等)

モータ (出力)

●ADAS(先進運転支援システム)



車線維持システムユニット ミリ波レーダーユニット センシング用カメラモジュール 周辺監視カメラ用レンズユニット リアビューカメラモジュール 乗員検知システムユニット

●ディスプレイ



ヘッドアップディスプレイ駆動モータ

●触覚デバイス



シート用触覚モータ

●操作スイッチ



事例② IT

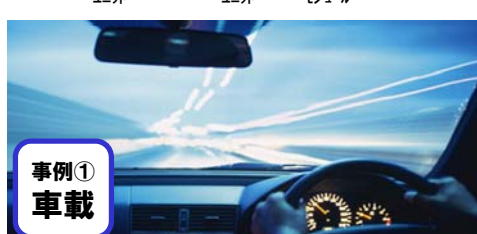
●ディスプレイ



触覚デバイス



事例① 車載



8

当社のロボット関連製品の拡がり

-All for dreams-

駆動技術を核に、応用技術分野へも進出中

カメラ・センサー

ブレ補正広角度カメラ (Tiltac)

インターフェイス

カスタムキーパッドとインターフェイス

触覚デバイス

コミュニケーションロボット

お掃除ロボット

スマートAGV

ACサーボモータ

ブラシレスDCモータ

ステッピングモータ

ブラシ付DCモータ

ホイールインモータ

モータ内蔵型アクチュエータ

バッテリーチャージャー

減速機

SHIMPO FLEXWAVE

9

完全子会社化後の成長戦略回帰の事例

-All for dreams-

新製品の集中連打で、事業ポートフォリオを一新

日本電産(Nidec)グループ
Sankyo
-All for dreams-

(売上高: 億円)

完全子会社化 (12年10月)

日本電産(Nidec)グループ
COPAL
-All for dreams-

(売上高: 億円)

完全子会社化 (13年10月)

<中期戦略目標を支える3大テーマ>

車載

車載用レンズ/コックピット

モバイル

手ぶれ補正・オートフォーカス/触覚デバイス

省エネ

ポンプ関連/ハウジング・オートメーション

車載

ビューカメラ・センサーカメラ/触覚デバイス

省人化

液晶後工程自動化/半導体EFEMロボット

産業系/医療・介護・福祉

レーザマーカ/超小型ギアモータ

10

21世紀型の製造業を目指す「生産技術研究所」



30年度・売上高10兆円の要はモノづくりの力



生産技術研究所、完成イメージ図

(工事期間(予定)2016年10月～2017年12月)

- ①未来市場・未来製品の創造に向けた技術課題への取り組み
- ②当社グループの技術力創出のコアとなり、生産技術面のグループ全体最適を図る
- ③世界に通用する高いレベルの技術者養成機関

11

Nidec is finally at CES*



CESに初出展、数多くの引き合いを獲得



【主な出展内容】

1. **ロボティクス分野**
インテリジェントドライブモータ(モータ制御技術)、カメラモジュール
2. **触覚デバイス分野**
力覚モジュール、振動アクチュエータ、バーチャルリアリティ関連、インターフェイス(HMI)
3. **商用ロボティクス分野**
スマートAGV、商用ドローン、垂直6軸ロボット

(開催期間 2016年1月6日～9日(米国時間))

*CES(Consumer Electronics Show): 米国ネバダ州・ラスベガスにて開催される世界最大の家電ショー。

12



お問い合わせ先
日本電産株式会社 広報宣伝・IR部
IRグループ
Tel: 075-935-6140
E-mail: ir@nidec.com

※注記:

米国会計基準に基づき、FASB Accounting Standards Codification (ASC) 805「企業結合 (Business Combinations)」の規定を適用しております。当連結会計年度の買収により取得した資産、引き継いだ負債のうち、現在評価中の資産、負債については、当第3四半期連結累計期間末日時点の予備的見積りに基づいており、また、公正価値評価が完了した資産、負債については、当該評価に基づき当期第2四半期累計期間の四半期連結財務諸表を遡及修正しております。

Nidec ロゴは、日本電産㈱の日本国、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
All for dreams ロゴは、日本電産㈱の日本国における登録商標または米国およびその他の国の商標です。

13

補足資料

業績推移・ 製品グループ別 状況



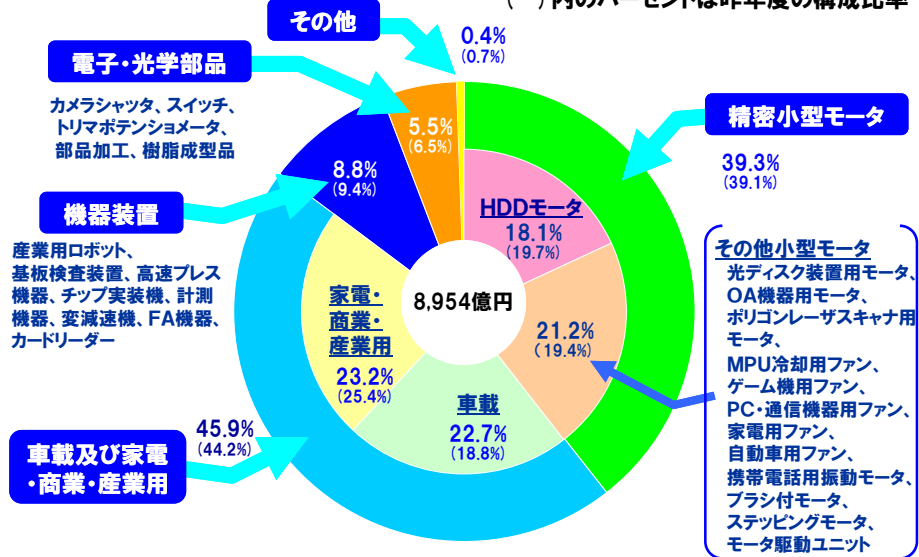
14

製品グループ別売上構成(9ヶ月累計)



サービス、オルゴール関連商品

() 内のパーセントは昨年度の構成比率

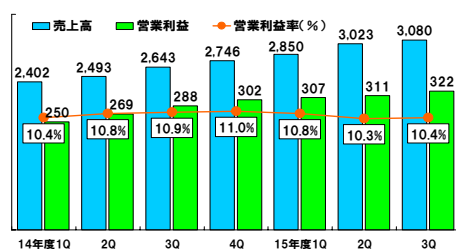


15

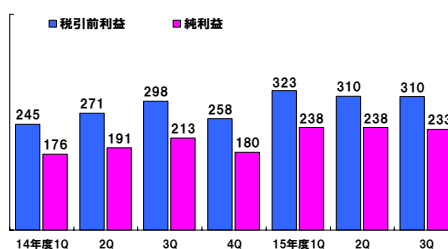
連結決算ハイライト



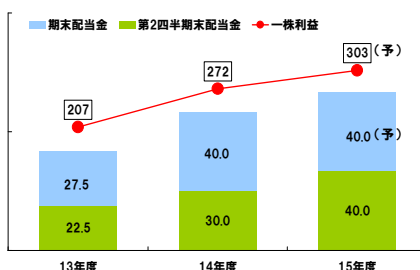
【売上高・営業利益の推移(億円)】



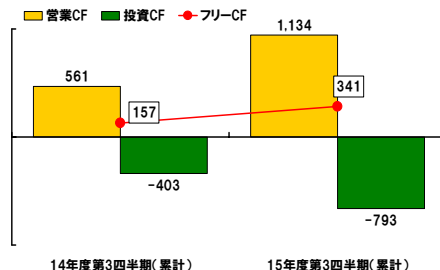
【税引前利益・純利益の推移(億円)】



【配当金の推移(円)】



【キャッシュフローの推移(億円)】



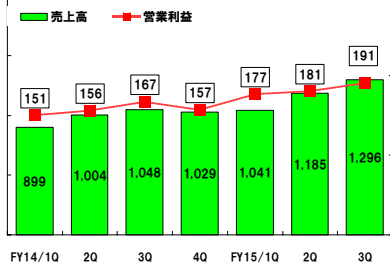
*13ページに記載の注記にご留意下さい。

16

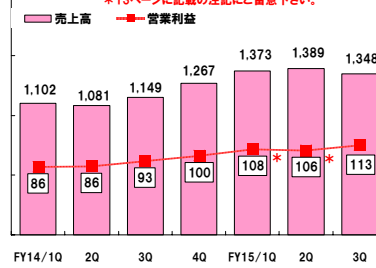
製品グループ別業績推移



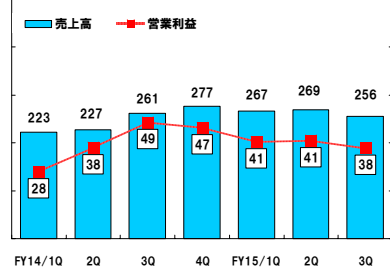
【精密小型モータ(億円)】



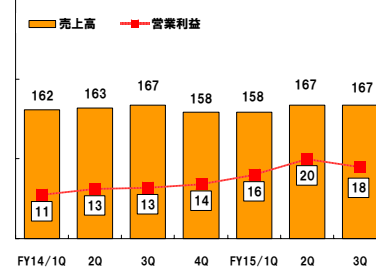
【車載及び家電・商業・産業用(億円)】



【機器装置(億円)】



【電子・光学部品(億円)】



17

新中期戦略目標 Vision2020



18

新中期戦略目標

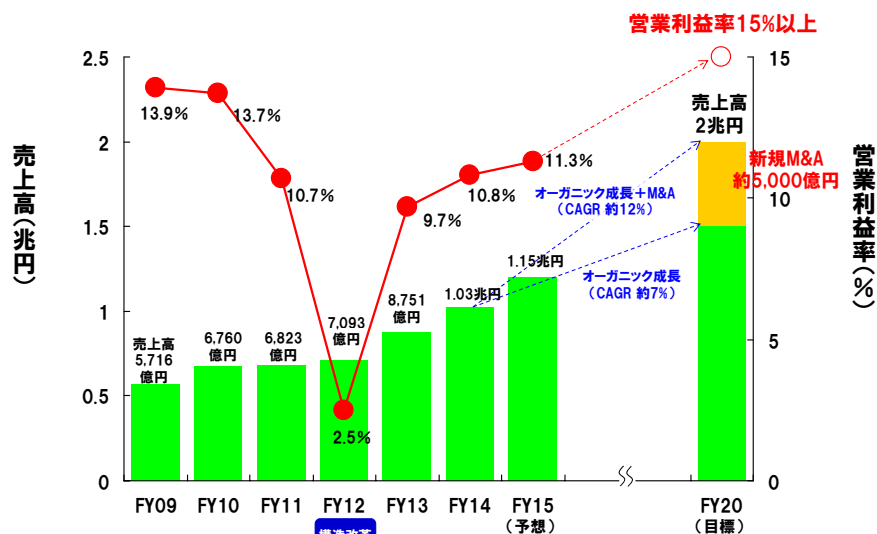
利益ある高成長の飽くなき追求

- ① 連結売上高目標 2兆円
(新規M&A 約5,000億円を含む)
- ② 内、車載売上高目標 7千億円～1兆円
- ③ 連結営業利益率目標 15%以上
- ④ ROE(株主資本利益率) 18%以上
(株主資本比率60%を前提目標)
- ⑤ グローバル5極経営管理体制の確立

19

売上高と営業利益率の目標

売上高成長(自律成長+M&A)と収益率の改善を両立させる



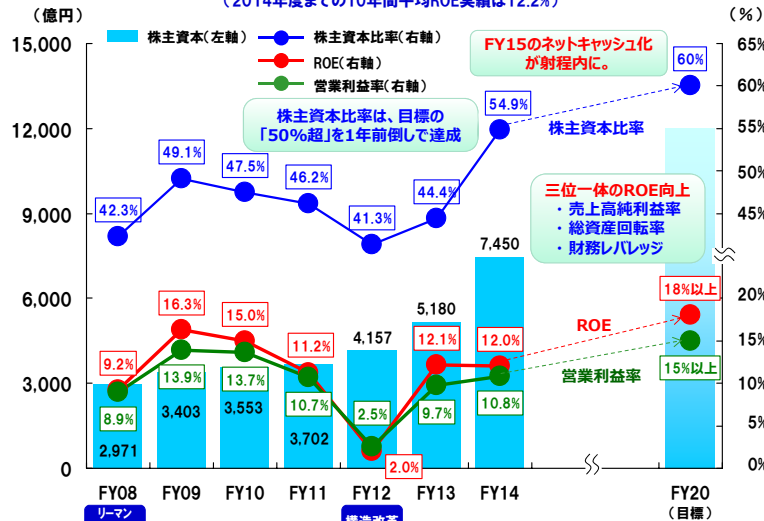
20

利益ある高成長と財務規律の両立



財務規律を維持・向上させながら 営業利益率15%/ROE18%を狙う

(2014年度までの10年間平均ROE実績は12.2%)



(2014年10月1日付にて、日本格付研究所(JCR)は当社の長期発行体格付を従前のA+からAA-へ1ノッチ引き上げております) 21

利益あるグローバル高成長を支える仕組み作り



グローバル5極マトリクス経営管理体制の構築推進

成長戦略の基盤強化

- ・グローバル自律成長
- ・海外M&AのPMI加速

事業別の経営管理機能(事業軸)

- 精密小型モータ
- 車載
- 家電 商業産業
- その他

②中国

2012年1月 中国管理統括会社始動

③アジア

各国別管理を発展的に地域統括化

④米州

2014年10月 米州統括会社始動

⑤EMEA

2015年3月 再編登記申請完了

(層別・地域別) 経営管理機能の構築

- ①日本
- ②中国
- ③アジア (核付連上)
- ④米州
- ⑤EMEA ※

地域統括会社が担う役割

- ①経営品質の向上
(ガバナンス・コンプライアンス・内部統制)
- ②経営効率の向上
(高品質・低コストの域内シェアードサービス)
- ③PMI(買収後の統合)の積極サポート

※EMEA・・・Europe, the Middle East and Africa (ヨーロッパ、中東及びアフリカ)

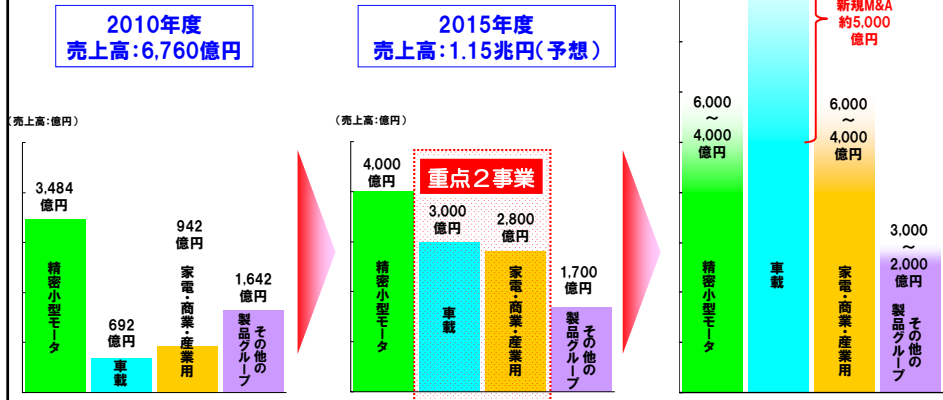
22

カテゴリー別のFY20売上高目標



技術革新を追い風とした高成長分野に経営資源を重点配置し、トップライン成長を再加速

2020年度
売上高:2兆円(目標)

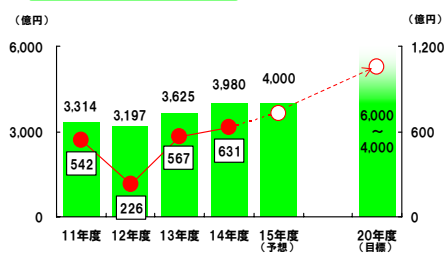


23

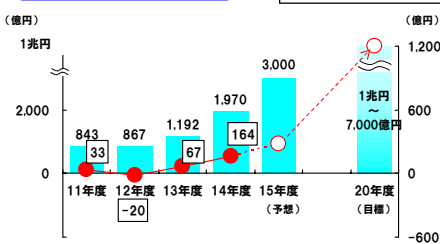
カテゴリー別の業績見通し



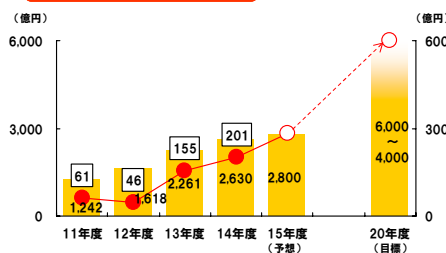
精密小型モータ



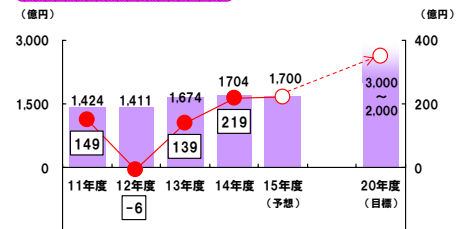
車載



家電・商業・産業用



その他の製品グループ



24